ジュラシック・トーク #1

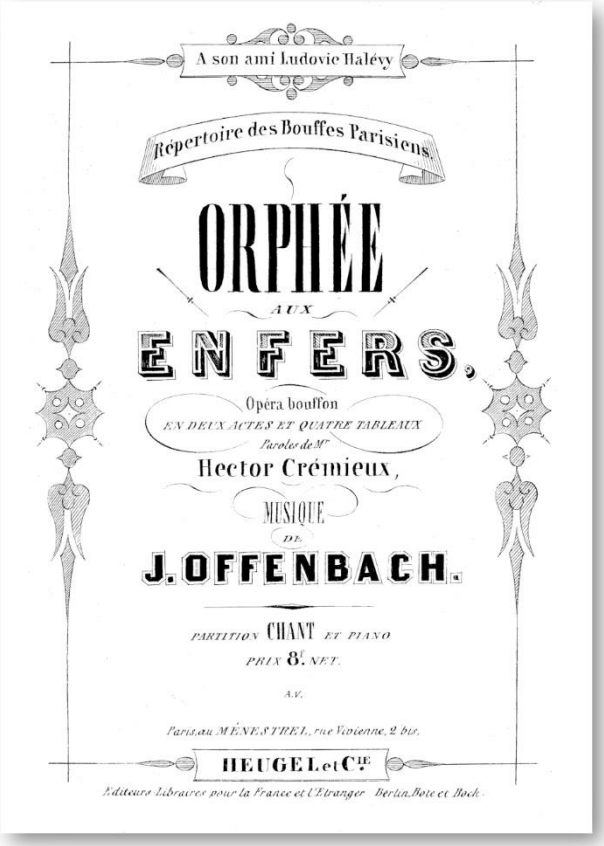
「天国と地獄」序曲の元ネタについて

今ニューフィルで練習している曲の中に、オッフェンバックのオペラ「天国と地獄」の序曲があります。このオペラのタイトルは、日本では「天国と地獄」でほぼ定まっていますが、オリジナルは「地獄のオルフェ（Orphée aux enfers)」です。つまり、ギリシャ神話の中に出てくるオルフェオとエウリディーチェの話をオペラにしたものが、モンテヴェルディやグルックなどによって作られていましたが、これは、そのグルックのオペラを元にしたパロディなのですね。実際に、その中の有名な「エウリディーチェを失って」というアリアまで登場します。しかし、ここでの設定は「原作」からは大幅に逸脱したものに変わりました。オリジナルの「妻が蛇に噛まれて死んでしまったために、夫は地獄へ妻を探しに行って見つけるが、帰り道に後ろを振り向いてはいけないという掟を破ったために、妻は死んでしまう」というプロットだけはしっかり守った上で、もうやりたい放題のハチャメチャな台本になっています。もちろん、フランスのオペラですから、登場人物の発音もイタリア語からフランス語に変わります。

主人公のオルフェ（オルフェオ）とウリディス（エウリディーチェ）という夫婦は、ここではもう完全に関係が冷え切っていて、それぞれが愛人を作っています。ある日、それぞれが愛人のところへ行こうといそいそと出かけた先で、二人はばったり出会ってしまうのです。オルフェは原作に倣って音楽家ですが、竪琴ではなくヴァイオリンを持っています。自分が作ったヴァイオリンの曲はウリディスは大嫌いだと知っていますから、わざとその曲を彼女の耳元で演奏するという嫌がらせをします。ウリディスは、両手で耳をふさいで、決してその曲は聴かないという強い態度に出ます。その彼女にとって「聴くにたえない」曲のメロディが、有名な「序曲」の中では、最後のフレンチ・カンカンが出てくる前の部分で、最初はヴァイオリンのソロで、そしてその後はオーケストラ全体で奏でられるのです（後述の「パート７」)。

それ以降、オペラの中でこのメロディが登場することはありません。これほど甘美なメロディを、単に「相手を嫌がらせるためだけの音楽」として使うなんて、オッフェンバックの（ブラック）ユーモアのセンスは飛び切りのものがありますね。こんなことは、後に他の人が作った「序曲」からは、決して分かりません。

そう、この序曲はオッフェンバックが作ったものではなく、オペラの中のテーマを元にカール・ビンダーという人が新たに作っているのです。ですから、ニューフィルのサイトでも、曲目の紹介では作曲家を「オッフェンバック/ビンダー」と表記しています。確かに、オペラの映像を見てみると、その中でこの序曲の中で使われているメロディがたくさん聴こえてきましたね。


A son ami Ludovic Halévy

Répertoire des Bouffes Parisiens.

ORPHÉE
AUX
ENFERS,

Opéra bouffon
EN DEUX ACTES ET QUATRE TABLEAUX
Paroles de Mr
Hector Crémieux,

MUSIQUE
DE
J. OFFENBACH.

PARTITION CHANT ET PIANO
PRIX 8f. NET.

A.V.

Paris, au MÉNESTREL, rue Vivienne, 2 bis.

HEUGEL et Cie

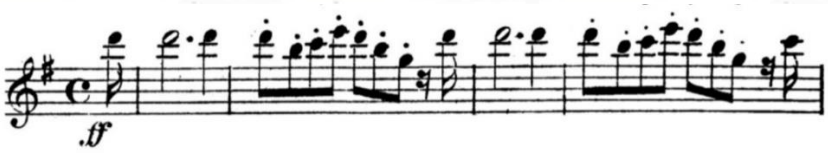
Éditeurs-Libraires pour la France et l'Étranger Berlin, Bote et Bock.

その「元ネタ」については、全音から出ているポケットスコアの解説で触れられていました。ところが、それを読んでみると、後半はおおむね正しいのですが、最初のあたりがオペラを聴いた時の事実とは違っているようなのです。そこで、ここは徹底的にその検証をしてみようと思いました。

まず、参考にしたのは、IMSLP で見ることができるヴォーカルスコアです。フルスコアは公開されていないようですね。そこで気が付いたのが、このオペラでは基本的に最初に作られた２幕版と、その後改訂された４幕版とがあるということです。それだけではなく、細かいところでかなり煩雑な改変もあるようなのですね。さらに、上演にあたってはカットされるナンバーもあります。曲順が変わっているという音源もありましたからね。

ですから、とりあえず曲を特定する時には、初版の２幕版の番号に頼ることにしました。この序曲には、オペラの中から８つのパートが使われているようでした。各パートの画像は、参考にしたバリー・コスキーの斬新な演出による 2019 年のザルツブルク音楽祭の映像から取っています。

■**パート１**（1-10 小節）



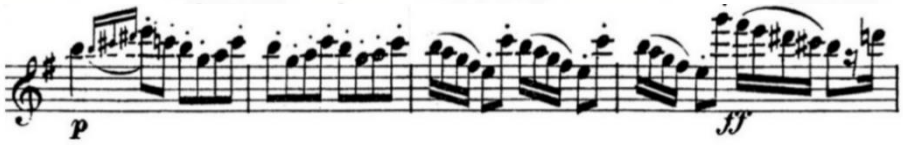
[元ネタ]No.7：「反乱の合唱」

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_01.mp3→

神々が独裁者であるジュピテル（ジュピター）に対して反乱を起こします。
フランス革命のパロディで、「ラ・マルセイエーズ」が挿入されています。

（歌詞）武器を取れ、神々と半神たちよ
暴君を倒せ、圧政はもううんざりだ

■**パート２**（11-15 小節）

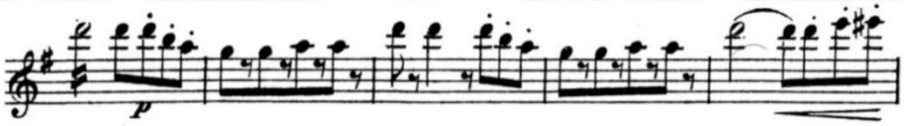


[元ネタ]No.6 bis：「プリュトン（プルート/冥界の神）の入場」

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_02.mp3→

この音楽に乗ってプリュトンがオリンポスのジュピテルの前に現れ、オリンポスを讃えるふりをして、ウリディスをさらってきたことをごまかします。

■**パート３**（16-34 小節）



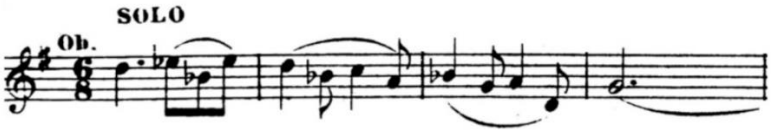
[元ネタ]No.8 の、神々が交互に歌い交わすクープレ。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_03.mp3→

神々がジュピテルの悪行を並び立てます。

（歌詞）あなたは誇り高いアルクメヌを
夫に化けて惑わせた
地上の女なら
それで騙されることは少ないけれど、
善人ぶらないで、お見通しよ
みんな悪行を知っている

■**パート４**（37-47 小節）



[元ネタ]No.1 の前奏曲でまず現れ、No3 のアリステ(養蜂家、プリュトンがなりすまし）のアリアのイントロとなる。オーボエ・ソロ。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_04.mp3→

（歌詞）私はアリステ、アルカディアの羊飼い
ハチミツを作り歌に酔う
無垢な喜びで満足することを私は知っている
その喜びは田園に生きるものに
神々が許しているもの

■**パート５**（48-79 小節）

[元ネタ]No.4 の、このオペラで最も有名なウリディスのアリア「死は微笑んでいるように私には見える」。オルフェオが放った毒蛇に噛まれて死ぬときに歌われます。

音源 https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_05.mp3→

（歌詞）死は微笑んでいるように私には見える
あなたのそばで死が私をさらおうとしている
私を引き付け誘う
死よお願い、私をさらっていって

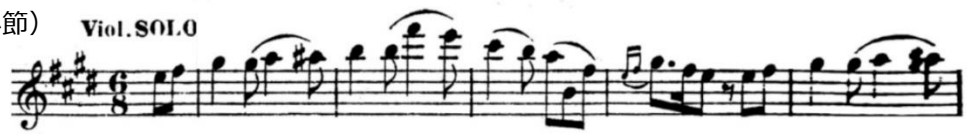
■**パート６**（80-106 小節）

[元ネタ]No.14 の「地獄の合唱」。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_06.mp3→

（歌詞）ワイン万歳　プリュトン万歳
人が何と言おうと、知るものか
神々がワインに酔い　プリュトンを讃え歌う
彼の素晴らしい住まいこそが
われらの言えとなるだろう
友よ、本当の人生は地獄でしか分からない

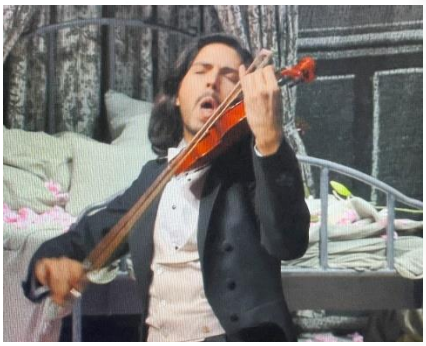
■**パート７**（107-165 小節）



[元ネタ]No.2 の後半。オルフェがウリディスに無理やり自作のヴァイオリン協奏曲を聴かせるという先ほどのシーン。ウリディスは耳をふさいで悲鳴を上げています。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_07.mp3→

（歌詞）オルフェ：優しきものよ今すぐ奏でてやろう。天才の作品だ。私の最も新しい協奏曲。
ウリディス：やめて
オルフェ：いや、すぐに始める。 1 時間 15 分の至高の芸術だ。
ウリディス：なんて長いの。聴かないわ。
オルフェ：聴くのだ。
ウリディス：いやだ、いやだ！やめて！
オルフェ：甘美で優雅だ。
ウリディス：耳障りで苦痛。不快でイラつく。
オルフェ：華麗で魅惑的。
ウリディス：最低、うんざり。
オルフェ：もう一度聴くのだ。切なく胸に迫るフレーズを。



■**パート８**（166-289 小節）

[元ネタ]No.15 の有名なフレンチ・カンカン。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_08.mp3→

（歌詞）奇抜なダンス、地獄のステップ
地獄のダンスよ、永遠に！

これらの音源をつなげると、確かに序曲が出来あがります。

音源：https://jurassic.fool.jp/jurassic/nikki/24_1/off_10.mp3→

翻訳：岩下真澄、字幕：米澤啓子（2020 年ザルツブルク音楽祭でのライブの NHK on air 版）